

子宮頸がん予防の最前線

企画者のことば

関根正幸

今や世界は「子宮頸がんを過去の病気にする」という世界保健機関(WHO)の提言どおり、子宮頸がんの撲滅・排除に向けて着実に動き出しています。その状況のなか、先進国では唯一日本だけが取り残され、子宮頸がん罹患率が減少していません。約9年続いた「HPV ワクチン積極的勧奨の中止」ですが、ようやく2022年4月に勧奨が再開され、同時に開始されたキャッチアップ接種は2025年3月に部分的終了となっています。また、厚生労働省が進める「HPV 検査単独法」は、2024年4月からの開始準備が各自治体に指示されてから1年が経過していますが、各自治体とも準備に難渋している状態と聞きます。

本特集では、日本における子宮頸がん罹患率と死亡率の低下のため、一次予防であるHPV ワクチンと二次予防であるがん検診をどのように組み合わせ、子宮頸がんの撲滅に向けたブレイクスルーを成し遂げることができるかを、「HPV 検査単独法の導入」、「HPV ワクチン接種の普及」、「キャッチアップ接種と男性接種の課題」、「HPV 感染型による個別化医療の可能性」に焦点をあて、各分野のエキスパートの先生から貴重な提言をいただいています。

読者の皆様におかれましても、各地域においての活動にあたり、本特集号がお役に立つ場面があれば幸いと考えております。日本の女性の幸せと健康を守る産婦人科医として、一步一步前進を続けていければと思います。